

授業科目(ナンバリング)	博物館教育論(CB212) (実践的教育科目)			担当教員	※安田 恭子 (実務経験のある教員)		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
博物館における教育活動の基盤となる理論と実践に関する知識、方法を習得する。はじめに、博物館事業の基本をおさえ、次に、博物館の実践例をみながら、博物館教育の現状と課題について探り、さらに、ディスカッションやグループワークにて企画を行ない、最後にプレゼンテーションをすることで望ましい博物館教育とは何かを考えていく。教育担当学芸員として博物館運営に関わる学芸員の育成を目的とする。							⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	ワークシート、ワークショップなど魅力的な教育プログラムを企画、実践する視点を身につけることができる。				課題レポート	25 %	
情報収集、分析力	博物館教育に関心を持ち、さまざまな事例について情報収集をおこなひ、教育的効果について説明できる。				課題レポート	30 %	
コミュニケーション力	市民の学びをサポートするために必要なコミュニケーション能力について理解し、育むことができる。博物館の教育活動に必要とされる協調性を養い、不自由なくコミュニケーションをとることができる。				授業態度 授業への参加度	15 %	
協働・課題解決力	ワークシート、ワークショップをグループで企画、実施することにより、ともに力をあわせて目標を達成する協働と課題解決力を育むことができる。				グループディスカッション	10 %	
多様性理解力	博物館教育の手法の多様性を理解し、目的に応じた的確な教育手法を選び、期待される効果について説明することができる。				プレゼンテーション	20 %	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
評価は、課題レポート 55%、授業態度と授業への参加度 15%、グループディスカッション 10%、プレゼンテーション 20%の配分で行なう。博物館教育の目的や特性について十分に理解できているか、博物館教育の目的に応じた的確な教育プログラムを企画、実施することができるかを評価基準とする。課題レポートなどでフィードバックを行なう。							
授業の概要							
博物館における教育活動の基礎知識と理論を習得するため、その発達経緯や国内外の博物館の取り組みについて概説する。特に、担当教員が館長、学芸員として博物館における教育活動に携わった経験をふまえ、授業では実践的、具体的な内容に取り組む。授業はパワーポイントを使用した講義形態を主体とする。学生による教育プログラムも実施する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。							
教科書・参考書							
教科書：小川義和・五月女賢司『発信する博物館 持続可能な社会に向けて』ジダイ社 (2021) 参考書：黒沢浩『博物館教育論』講談社 (2015) 指定図書：小川義和・五月女賢司『発信する博物館 持続可能な社会に向けて』ジダイ社 (2021)							
授業外における学修及び学生に期待すること							
休日などを利用して、博物館で行われる教育普及活動を見学、もしくは参加してほしい。企画者の立場だけでなく、参加者の立場で見学、参加することにより、多角的に視野を広げることを期待する。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	博物館教育の意義と目的	授業の進め方の説明（ガイダンス）と博物館事業、特に、博物館教育とは何か、その意義と目的について概説。	博物館教育の復習と自分の博物館体験レポート作成。
2	博物館教育の歴史	一方通行ではなく、双方向の時代へと移っていった博物館における教育普及活動の歴史を学ぶ。	博物館教育史の復習と教科書の該当ページを読む。
3	博物館の教育プログラム	博物館における教育プログラムについて、企画から実施まで、アウトリーチやハンズ・オンなど実例をもとに説明。	教育プログラムに関する復習と博学連携事例の調査。
4	博学連携	学習指導要領と展覧会企画、子どものための展示方法などを学び、博物館と学校との連携について考える。	博学連携の復習と生涯学習事例を調べておくこと。
5	生涯学習	博物館と生涯学習との関係について学び、大人のための展示について探っていく。	生涯学習の復習と博福連携の事例を調べておく。
6	博福連携	全国で広がりを見せている博物館と福祉の連携について考える。	博福連携の復習と教育プログラムとは何かを予習。
7	教育プログラム A (1)	佐世保市博物館島瀬美術センターの展覧会を題材とした教育プログラム A（ワークシート）をグループで考える（ディスカッション）。	教育プログラムの復習と具体案を考えておくこと。
8	教育プログラム A (2)	対象者、内容、方法など具体的に考えていく（グループワーク）。	教育プログラムの復習と完成プロセスを予習。
9	教育プログラム A (3)	教育プログラムを完成させる（プレゼンテーション）。	プレゼンテーションに関する感想文作成と次案考察。
10	教育プログラム B (1)	佐世保市博物館島瀬美術センターの展覧会を題材とした教育プログラム B（ワークショップ）をグループで考える（ディスカッション）。	教育プログラムの復習と具体案を考えておくこと。
11	教育プログラム B (2)	対象者、内容、方法など具体的に考えていく（グループワーク）。	教育プログラムの復習と完成プロセスを予習。
12	教育プログラム B (3)	教育プログラム B の準備を行なう（グループワーク）。	教育プログラムの復習と効果的な実施を考える。
13	教育プログラム B (4)	教育プログラム B の準備を行なう（グループワーク）。	教育プログラムの復習と実施に向けた予習。
14	プレゼンテーション(1)	展覧会会場での教育プログラム A の実践（フィールドワーク）。	感想文作成と次プログラム実施に向けた予習。
15	プレゼンテーション(2)まとめ	展覧会会場での教育プログラム B の実践、博物館教育のあり方についてまとめる（フィールドワーク）。	実施の感想文作成と博物館教育の全体的な復習。